

米づくり情報 (NO. 7)

令和元年 7月31日

伊万里・西松浦地区農業技術者連絡会作物部会

1 気象概況 (アメダス観測地：伊万里)

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 mm	本年値 mm	平年値 時間	本年値 時間
7月	1	24.6	22.8	28.4	26.5	21.7	19.9	84.2	22.5	17.9	14.5
	2	25.4	24.3	29.3	26.7	22.5	22.2	70.2	582.5	21.3	8.4
	3	26.1	23.7	30.1	26.9	23.0	21.1	60.6	73.0	24.1	1.5
	4	26.6	24.9	30.9	28.6	23.4	22.4	54.2	60.0	28.0	10.4
	5	27.0	25.9	31.5	28.7	23.6	23.7	47.4	115.5	32.0	7.0
	6	27.3		31.9		23.7		44.2		40.7	
8月	1	27.4		32.2		23.7		28.7		34.0	
	2	27.4		32.2		23.7		31.2		32.8	
	3	27.3		32.0		23.8		35.9		30.1	

【気象概況】

- 平均気温は、平年と比較して1～2℃程度低く推移した。
- 日照時間は、平年の26%とかなり短かった。
- 降水量は、7月1半旬は平年より少なかったものの、2半旬はかなり多く582mmとなり記録的な大雨となった。
(7月6日：197mm、7月7日：208mm、7月9～10日：169mm)
- 本年の北部九州の梅雨明けは7月30日となり平年より11日遅い梅雨明けとなった。

2 生育状況 (7月31日)

項目 品種(設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	主稈 出葉数L	葉色 SPAD	概要
夢しずく 6/1 移植 東山代町脇野	本年値	87.3	314	13.6	38.8	<ul style="list-style-type: none"> 草丈は、平年よりやや低い 茎数は、平年より少ない 主稈出葉数は平年よりやや多い 葉色は平年よりやや濃い
	平年値	94.4	367	12.8	37.3	
	平年比	93	85	+0.7	+1.5	
ヒノヒカリ 6/20 移植 松浦町桃川	本年値	62.7	308	11.3	45.7	<ul style="list-style-type: none"> 草丈は、平年よりやや低い 茎数は、平年よりかなり少ない (※大雨による深水で分げつが抑制され茎数が少ない) 主稈出葉数は、平年並み 葉色は平年より濃い
	平年値	69.2	488	11.7	41.3	
	平年比	91	63	-0.4	+4.4	
たんぼの夢 6/16 移植 松浦町桃川	本年値	66.1	529	11.1	45.7	<ul style="list-style-type: none"> 草丈は、平年よりやや高い 茎数は、平年並み 主稈出葉数は、平年並み 葉色は、平年よりやや濃い
	平年値	63.5	518	11.5	43.4	
	平年比	104	102	-0.4	+2.3	

(耕種概要)

※夢しずくの耕種概要は稲作情報 No.1、ヒノヒカリ・たんぼの夢の耕種概要は稲作情報 No.3 を参照。

3 今後の管理

1) 山間早植え水稻（5月上旬移植）

- ・まもなく出穂期を迎える。
- ・最も要水量が大きい時期であるため、出穂 10 日後までは間断灌水の湛水期間を長めにとる。

2) 普通期水稻「夢しずく」

- ・穂ばらみ期を迎えている。
- ・穂孕期から穂揃期にかけては、イネの用水要求度が高い時期であるため、水が切れることがないように圃場の水管理を徹底する。

3) 普通期水稻「たんぼの夢」、「ヒノヒカリ」等

- ・有効茎（茎数が 1 株 20 本程度）が確保できた圃場から順次中干しに移行する。
- ・7月上旬の大雨による深水状態が続いた圃場では、茎数がやや少ない傾向にある。

4) 共通

○主な病害虫の防除適期

病害虫名	稲のステージ 出穂前後日数	防除適期								
		-15	-10	-5	0	+5	+10	+15	+20	
紋枯病	並発生の場合	←→								
	多発生の場合	←→		←→						
穂いもち	並発生の場合				←→					
	多発生の場合				←→		←→			
カメムシ類	並発生の場合							←→		
	多発生の場合						←→		←→	

図3 紋枯病、穂いもち、カメムシ類の防除適期

- ・圃場での病害虫の発生状況を確認し、防除時期を逸しないよう注意する。
- ・農薬の使用にあたっては、使用する農薬の登録内容を遵守する（特に収穫前日数に注意）。

○コブノメイガ

・農業技術防除センターのトラップ調査において、6月10～15日頃、18日頃、25～28日頃及び7月6～11日頃を中心に断続的に飛来が確認されている。また、圃場の定期調査では、山間早植え水稻、普通期水稻共に食害株率が平年より高い数値となっている（下図 令和2年7月22日 病害虫発生予察注意報第3号より）。



・防除適期は、幼虫心化揃い期（発蛾最盛期の7日後）となっているため、圃場での発生状況に応じて防除を行う。ただし、本年度はトビロウンカの影響も多いため、両方の発生状況を見ながら効率的な防除に努める。

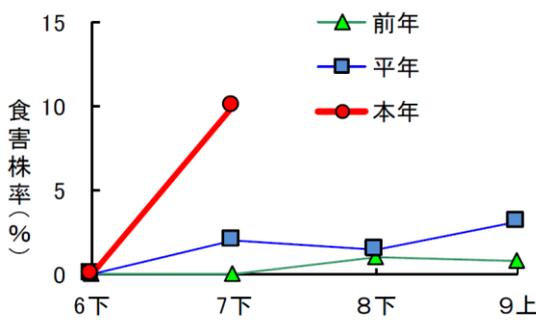


図1 山間早植え水稻でのコブノメイガの発生推移

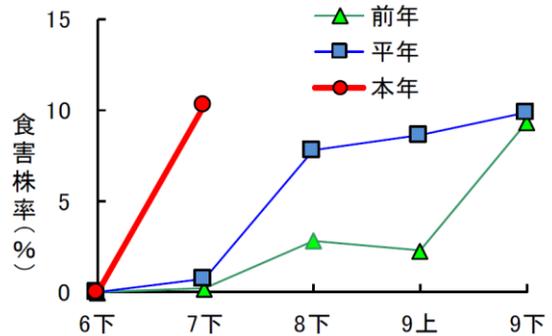


図2 普通期水稻でのコブノメイガの発生推移

○ウンカ類

・佐賀県嬉野市では、6/11に11頭、6/25～28に85頭、7/6～7/11に5561頭のトビロウンカの飛来が確認されており(次ページの表参照)、この飛来波の今後の発生予測はp4のとおりである（発生予測図は7/21更新）。

・防除時期については、今後の飛来状況や圃場条件（移植時期や品種、圃場の場所等）によってウンカ類の発生量が異なるため、注意深く圃場を観察する。

※本年のウンカの飛来量は、現在までに5798頭確認されており、これは甚大なウンカ被害が発生した昨年の飛来頭数（6/9～7/22間の飛来頭数合計118頭）の約50倍の量となっている。

ウンカ類幼虫の見分け方について

	若齢幼虫の体色	中～老齢幼虫の体色	水面での後脚の出し方
セジロウンカ	白っぽい	灰白の斑紋	:真横
トビロウンカ	白っぽい	薄茶か茶褐色	:真横～やや斜め後ろ
ヒメトビウンカ	黄褐色	淡黄色か薄茶か茶褐色 (体側の色が濃い場合あり)	:斜め後ろ

		トビロウンカ	セジロウンカ	ヒメトビウンカ
幼虫	若齢			
	中齢～老齢			

トビイロウンカ各世代の発生予測（2020年7月21日作成）



図 1 トビイロウンカ各世代の発生予測（第 4 版、2020 年 7 月 21 日作成）

1. 6 月 10～15 日頃（図では 11 日）、6 月 25～28 日頃（図では 27 日）、7 月 6～11 日頃（図では 7 日）に飛来したトビイロウンカを起点とし、佐賀市川副町の気温データより算出した有効積算温度（7 月 21 日以降は平年値）を基に作成。
2. 本種に対しては、幼虫ふ化揃い期の防除効果が最も高い。今後の各飛来波の幼虫ふ化揃い期（第一または第二世代）を、赤枠で図示した。
3. 田植え時期、品種、地域及びこれまでの防除の違い等によって、本種の発生量は異なる。また、これらの田植え時期等によって、各飛来波に対する防除の重要度も異なるので、各圃場の発生状況を確認し、適期防除を実施する。この際、コブノメイガの発生状況も考慮し（令和 2 年 7 月 22 日付け病害虫発生予察注意報第 3 号）、効率的かつ効果的な防除対策を講じる。
4. 今後の飛来状況、気象経過に応じて、本図は更新する（農業技術防除センターのホームページを参照）。

〇いもち病

7月29日までのBLASTAM情報（気象条件のみによって葉いもちの発生を予測するシステム）によると、伊万里では6月12日、7月6・9・12日に葉いもちの感染好適条件が観測されている（好適条件が観測された1週間後に初発生や病斑数の急激な増加が予想される）。すでに進展型病斑が確認されている圃場もあるため、田周りをを行い進展型病斑が確認された圃場では、オリブライト粒剤等（収穫前45日、出穂10日前まで）で速やかに防除を行う。

2. BLASTAM情報第8号(葉いもち感染好適条件の出現状況)(図1、図2も参照)

月	日	佐賀					福岡			長崎		
		唐津	伊万里	佐賀	嬉野	白石	川副	前原	大宰府	久留米	松浦	佐世保
6月	1日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	11日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	12日	-	●	2	●	-	-	-	-	-	●	-
	13日	-	-	-	3	-	-	-	3	-	-	-
7月	1日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	3日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	4日	●	-	-	●	●	-	●	-	-	-	-
	5日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	6日	●	●	-	●	●	-	●	-	-	●	●
	7日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	8日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	9日	-	●	-	-	-	-	-	-	-	●	-
	10日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	11日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	12日	-	●	●	●	●	●	-	-	-	-	-
	13日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	14日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	15日	-	-	-	●	●	-	-	-	-	-	●
	16日	●	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-
	17日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	18日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	19日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	21日	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	22日	-	-	-	-	3	3	3	-	-	-	-
	23日	3	-	3	2	3	-	-	3	3	-	-
	24日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	25日	-	2	-	-	-	-	-	-	-	2	-
	26日	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	-
	27日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	28日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

- 1：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満）
 2：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上）
 3：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤期間中の平均気温が15～25℃の範囲外）
 4：準好適条件（湿潤時間が湿潤期間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い）
 ●：好適条件（湿潤時間が長く気温も適当で、葉いもちの感染好適条件が出現した）
 -：好適条件の出現なし
 ?：判定不能

BLASTAMの活用方法

- (1) BLASTAMは、気象条件(アメダスデータ)のみによって葉いもちの発生を予測するシステムである。しかしながら、実際の圃場における葉いもちの発生には、気象条件の外にも、菌の多少(密度)、イネ品種による抵抗性や体質、薬剤防除条件などが大きく関与している。したがって、BLASTAMは、あくまでも葉いもち発生予測の参考資料の一つとして扱う。
- (2) BLASTAMは、葉いもちを対象としており、稲の移植約20日後を起点とした35日間(6月15日移植の場合、7月5日～8月10日)が適用期間とされている。ただし箱施肥が行われた圃場では、その持続期間中はBLASTAMは使用できない。
- (3) 葉いもちは、菌の侵入から発病までの潜伏期間が約1週間である。そのため、BLASTAMによる感染(準感染)好適条件が現れた場合、感染株では約1週間後から初発生あるいは病斑数の急激な増加が予想できる。
- (4) BLASTAMによる感染(準感染)好適条件の出現回数が多いと、その地域の葉いもちの発生面積が増加し、発病程度も著しくなることが予想できる。

令和2年産水稻生育期間気象グラフ (アメダス：伊万里)

西松浦農業改良普及センター

